

令和4年度 板橋区立志村第二中学校 授業改善推進プラン

教科名

理科

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	東京都学力向上を図るための調査の結果より、授業を理解している生徒は91%であったが、約40%の生徒が苦手意識を持っていた。実験や観察に対しては意欲的に取り組み、一人一人がしっかりと予習をした上で授業を受けることができているが、定期考査を分析すると、科学的に考え、問題解決能力を問う問題が弱い傾向がある。	意欲的に実験や観察に取り組む姿勢がある一方で、結果から科学的に考察する力、自分の言葉で表現する力に課題がある。また、数学的な概念が理解できていないなど、数字(算数)でつまづいている生徒が目立ち、表やグラフなどの読み解く力にも課題がある。	書く力を向上させるために、考察の書き方を段階的に分けて指導し、課題に取り組みさせる。また、少人数で実験をすることで、自然の事物・現象についての原理や概念、法則を生徒自身に見いださせる。ICT機器の活用により、身近な科学的事象を取り入れ、視覚的にも理解できるよう工夫する。
8 学 年	東京都学力向上を図るための調査の結果より、約90%の生徒が授業を理解していると回答した一方で、約30%の生徒が苦手意識を持っていると回答した。実験や活動には意欲的に取り組むものの、考察に対して苦手意識が強く、科学的に分析したり、思考力・判断力・表現力の観点に課題が見られる。	生徒は実験や観察に対して意欲的に活動している一方で、思考場面に対して苦手意識が強い。思考よりも前にわからないなどの言葉がでてしまうことに課題がある。知識を習得することは問題なく行えるが、知識を活用・応用する力、グラフや表を読み解く力にも課題がある。	簡単な思考場面を多く用意し、考えることを日常化させ、思考に対する壁をとりはらいたい。結果が予想と反したときに、その理由をよく考えさせ、科学的に根拠をもとに考えさせる。ICT機器を積極的に活用し、身近な科学的事象を取り入れ、視覚的にも理解できるよう工夫する。
9 学 年	全国学力・学習状況調査の結果より、正答率は47%であった。 理科の授業の内容は概ねわかると答えた生徒は約8割、理科の学習は概ね得意と答えた生徒は約5割いる。コロナ禍で理科室の使用に制限はあるが、意欲的に取り組んでいる。一方で、思考力・判断力・表現力の観点の問題が弱い傾向がある。	生徒自身が意欲的に実験に取り組み、昨年度よりも実験結果から科学的に考察する力が身に付いてきた。しかし、自分の言葉で考えて書く力には依然課題がある。また、自然の事物・現象についての概念や原理・法則の理解を図るためには、生徒自身に実験・観察を行わせることが大切だが、実験器具が足りないことが課題である。	書く力を向上させるために、実験の考察や章末のまとめなど文章を書く課題を多く取り組みさせる。また、探究力が高まるよう、結果が予想と異なる場合を想定したり、批判的思考に基づいた話し合いをしたりする。ICTを活用して、視覚的に理解させて、科学的事象を身近にし、実験結果のまとめや考察の取り組みを考える。